

Chromaster

■ 抗真菌剤の分析

近年骨髄・臓器移植の免疫抑制剤による副作用や、癌化学療法・HIV感染などによる免疫低下により、深在性(全身性・内臓性)の感染症が増加しています。そこで、広い抗菌スペクトルを有する抗菌薬が多く開発されています。

中でもアゾール系抗真菌薬は、選択性が高いため、内用や注射剤として広く使用されていますが、肝臓のシトクロームP450で代謝され、多数の薬物相互作用があるために、他の薬剤との併用時には副作用発生を防ぐため、抗真菌薬の血中濃度モニタリングの必要性が求められています。

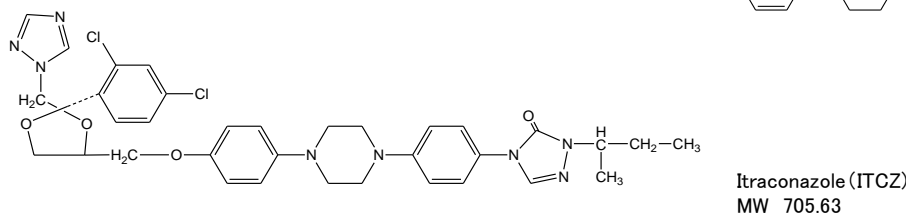
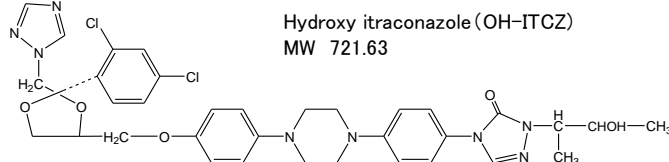
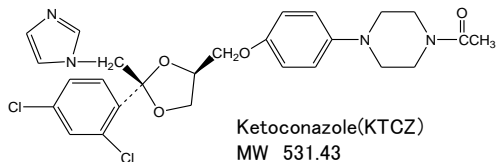
以下にアゾール系抗真菌薬(ケトコナゾール、ヒドロキシイトラコナゾール、イトラコナゾール)の分析例についてご紹介します。

◆ 抗真菌剤の分析 ◆

試料：アゾール系抗真菌剤（ケトコナゾール、ヒドロキシイトラコナゾール、イトラコナゾール）

試料は100 µg/mLになるように、アセトニトリルで調製しました。

■ 標準試料



【装置構成】

Chromaster 5110 ポンプ
Chromaster 5210 オートサンプラ
Chromaster 5310 カラムオープン
Chromaster 5410 UV 検出器
Empower2 データ処理システム

【分析条件】

カラム	HITACHI LaChrom C18 (3 µm) 4.6 mm I.D. × 100 mm
溶離液	(A) 10 mmol/L KH ₂ PO ₄ · K ₂ HPO ₄ (pH 7.0) / アセトニトリル = 50 / 50 (B) アセトニトリル * Gradient Program: 0分(B)10% → 10分(B)50%
流量	1.0 mL/min
カラム温度	40°C
検出	260 nm
注入量	20 µL

■ 標準試料測定結果

